

事業実施報告書

事業名 オープンスペース（お寺・ガーデン）を活用した地域包括ケア事業

1 事業の目的

ポストコロナの今、高齢者の社会参加の減少や不登校・ひきこもりといった福祉的課題が表面化してきている。しかし、福祉的課題が複雑化・複合化しているため、具体的な解決策（解決型の支援）が無いままであるといった声がクラブへと多く寄せられた。

そこで、世代や障がいの有無を問わず誰でも参加できる『第3の居場所』を、気軽に立ち寄りやすいオープンスペース（お寺・ガーデンスペース）で定期開催する。

本事業では、『相談支援』『居場所支援（高齢者・障がい者の送迎支援含む）』に加え、『地域づくり支援』を実施する。『地域づくり支援』とは、参加者（こどもから高齢者までの多世代）が本事業を通して、事業コーディネーターとともに“自分の生きがい・やりがいを見つける”ことで、地域での自分の役割が見つかり、自己肯定感や有用感が高まり、社会参加の増加や不登校・ひきこもりを解消することを目的に実施する。

2 事業内容

（1）事業の概要



- 宝幢寺で太極拳＆ランチ：毎月2回（火曜日）11：00～13：00 宝幢寺
- かしわなガーデンサロン：毎週水曜日 14：00～16：00 しきーズステーション

(2) 事業の流れ

	宝幢寺太極拳&ランチ	かしわなガーデンサロン	
日時	毎月 2 回 (火曜日) 11 : 00～13 : 00	毎週水曜日 14 : 00～16 : 00	
会場	地王山 地藏院 宝幢寺 (志木市柏町 1-10-22)	しっきーずステーション (志木市柏町 3-3-31-106)	
回数	16 回	36 回	52 回
対象	どなたでも	どなたでも	
参加者数	291 人	405 人	696 人



『宝幢寺太極拳&ランチ』 (左) 鐘撞堂でスクワット (右) 仲間と歩いて帰る参加者



『かしわなガーデンサロン』(左から) 購入した花苗、庭作業、ガーデンで音読、収穫を楽しむ 1 年生

(3) 連携・協力機関

- ①宝幢寺②志木第三小学校③志木市社会福祉協議会④地域包括支援センター柏の杜
⑤埼玉県 (青少年課・福祉政策課) ④認定 NPO 法人さいたまユースサポートネット
(埼玉県バーチャルユースセンター担当) ⑤志木市 (健康政策課・長寿応援課・こども
支援課・共生社会推進課) ⑥地域情報誌かしわなほっとぷれす編集委員会

3 成果及び今後の展開

- 福祉課題の解決を目的とした事業を通年開催したことで、事業に参加した小学生やその保護者・シニア世代までの多世代が、地域での支え合いを我が事として考えるようになったことは大きな成果であった。また、仕事などで都合が合わず本事業に参加できない市民や団体・事業所であっても、「しっきーずが福祉的な取り組みを行

っている」ことを地域情報誌や口コミなどから知ること、「何か協力できることがあったら言ってね（事業所）」「私の母（80代）も参加して良いですか？（市民）」など様々な反応（成果）があった。

- 志木市でも様々な地域活動があるが、「（体は健康だけど）会場まで行けないから参加しない」という声が近年増加しており、本事業では車での送迎も行った。「足腰が弱って億劫でね…」と話す参加者が、「帰りは仲間と頑張って歩いて帰ろうかな」といった行動変容がみられる効果もあった。（80代後半女性）
- 課題としては、車で送迎する際に、「車を出してもらって申し訳ない」という反応が非常に多かった。年代では80代～90代の方に多くみられ、「迷惑を掛けているわけではない」ということを丁寧にお伝えし続けることで解決していった。丁寧に伝えることをしないと「申し訳ないから参加しない」といったことが多団体の活動でも起きているため、横展開していく際にも重要なことであると考えた。
- 学校生活に不安や悩みを抱える小学生（1年生）が『かしわなガーデンサロン』に参加した。特に勉強面で悩みを抱えていたが、シニア世代の参加者に宿題を教わり、音読を聞いてもらう中で少しずつ笑顔が見られるようになっていった。優しく包み込むように教えてくれるシニア参加者と小学生の相性はとても良く、シニア参加者は小学生から元気を貰い、小学生は自己肯定感の高まりがみられた。また、その小学生の保護者から「いつも本当にありがとうございます。私で良ければ、いつでも送迎ボラとかしますのでお声掛けください」といった声もいただいている。
- お花をコミュニケーションのツールとしたことで、花苗を選ぶ楽しみ・植替える楽しみ・育つ楽しみ・見る楽しみなど、多くの楽しみを仲間と共有でき、皆と喜び合うことができた。ガーデンスペースが通り（小学校前）に面していることから、「あのお花は〇〇（シニア）さんと僕が植えたんだよ」といった会話（小学生同士・親子など）も生まれた。
- ガーデンスペースが小学校のすぐ目の前という立地から、子育てで悩みを抱える保護者（不登校含む）が、先生との面談後に立ち寄ることもあった。「学校のすぐ近くに相談できる場所があることは本当に有り難い」という声を、保護者・先生方から多くいただいた。
- 埼玉県青少年課と認定 NPO 法人さいたまユースサポートネット（埼玉県バーチャルユースセンター担当）と連携し、バーチャルユースセンター事業のデモを行った。参加した小学生やその保護者は、バーチャル空間での居場所づくりが推進されていることを知るきっかけとなり、大変好評であった。